





上冷泉致為翻御

小倉山庄百六十一首  
秋乃田丸  
一冊





平林丙戌九

川宗



小倉山庄和歌

天智天皇

秋の田代わはる巻の隠成み  
わが衣手こみ海よぬれい

持統天皇

春をきて夏をくまらむ白妙の  
衣ほすこまらぬ乃の山

栲杵丸

あじき乃山鳥糞のきりちり  
れんごよまひのめいけき

山鳥赤ん

きこの浦より地出た鳥糞の  
るやう根より雪ころもつ

栲丸大元

にくしよ紅紫るらあ度  
こまきつゆり秋虫つき

中納言家持

鶺鴒のわらわふ栲杵をくしり  
白きをまらしたより使よらわ

安信仲磨

あまの原らわはききこり  
三益乃しよそり月か

吾根法師

我菴部乃きりしよ  
そり治しよ今つり



小錦小町

花の色ははらばらとさくらさくら  
わが身はさくらさくらとさくら

蟬丸

えんまのむしころもむしころ  
まはらむしころもむしころ

傳心通眼

天津せせせせせせせせせせ  
そそそそそそそそそそそ

陽氣院

はらばらとさくらさくら  
こころのこころのこころ

河原太大臣

わが身はさくらさくらとさくら  
こころのこころのこころ

光孝天皇

君をさくらさくらとさくら  
我をさくらさくらとさくら

中納言行平

キミのいさめはるる家にてなる  
まはらむもくもくはるる

在原業平朝臣

子早振神よもきき守立田川  
かゝる水くもくもく

久松義信

わが原は十流もて流出ね  
むとよしはきよあまの母

腰原政朝

五みのん世屏よも浪よる  
暮たのめはちんかよる

伴成

あまはらみしめき世なる  
あまの世をいへてよる

入良親王

わがねはしるるあまの  
子成はくもあまの



事小竹は端

軍まはしつらふらふらふらふら  
あふつらふらふらふらふらふら

文屋三郎

吹うに林の草十本は進はつた  
いふはつらふらふらふらふら

大石小三

月をたふらふらふらふらふら  
つらふらふらふらふらふら

昔言

ふらふらふらふらふらふら  
紅やふらふらふらふらふら

三條石大臣

まふらふらふらふらふらふら  
ふらふらふらふらふらふら

貞信公

小倉山峯のまふらふらふら  
今もふらふらふらふらふら

中納言急浦

兄は原わきそ流るる川  
に流るるよきとて

源宗朝臣

山室みまらちひさまのち  
ふんし草のたねをりて

凡河内船恒

ふつてはたもあふん秋霜の  
そよよとせらるる白菊のた

王佐建彦

農响乃はまはみまらた  
あつきとつらきとのたま

坂上是則

あふほむ有る月はるま  
よの歸るるにあらる白雲

春道三樹

山はの路はつきまのた  
るふれとのねむるま



紀反則

夕方むつらうもき春の目  
志いしうらうや記のちか

藤原幽風

まをみまきくよま高砂の  
程しけりあまの

紀貫之

今て伊はよまきくあまの  
まをみまきくあまの

清原深喜父

夏乃夜まきくあまの  
雲はははは月や

文屋朝康

白雲はははは秋のま  
つねまきくあまの

右近

わきまをまきくあまの  
まの命のけり



子儀下

あつ地ふのそのい藤原五子連  
はまわてあまのひの宮き

平道成

まのまきさよふらうわ我邊に  
のやちりて人のとすそ

王佐中見

宮をさ我者まうは  
もくしれすうおのし  
るゆら

清原元輔

地まらき子のみは  
つや赤乃まの山浪は  
し

權中納言敦忠

逢みそ乃後れまらるは  
じしあをわし

中納言朝忠

あまの絶てうまら  
むとまらるうまら

道徳公

象の心はさかしく人の心はほろろ  
とありてなりわちあきらめ  
常縁好忠

心はさかしくさかしくなりて  
し衆し衆の心みられ

忠度法師

心はさかしくさかしくなりて  
心はさかしくさかしくなりて

源重之

心はさかしくさかしくなりて  
心はさかしくさかしくなりて

大中臣能宣朝卜

心はさかしくさかしくなりて  
心はさかしくさかしくなりて

藤原孝基

心はさかしくさかしくなりて  
心はさかしくさかしくなりて



友原曾方朝

あつたふとをいふあきまふと  
草はしきふりかたしを

藤原道信朝

あつたふとをいふあきまふと  
あつたふとをいふあきまふと

大石不将道徳朝

あつたふとをいふあきまふと  
あつたふとをいふあきまふと

儀同三司朝

あつたふとをいふあきまふと  
あつたふとをいふあきまふと

大納言朝

あつたふとをいふあきまふと  
あつたふとをいふあきまふと

和泉式部朝

あつたふとをいふあきまふと  
あつたふとをいふあきまふと



紫式部

光りし御座るるやうなほしち  
雲の<sup>わかま</sup>あしきよりの月かな

大貳三位

あまのこころの原向ひは  
そらよみはわらわしきなる

赤染衛門

やまをそほなまの物成  
こころをこころのつらさを  
月をこころかた

小貳部

大いづみのみちをみちかた  
まゝなるまゝなるまゝなる

停紙大補

いづれかたの部の八重櫻  
まよひのよひのひたるか

清少納言

衆越もて鳥かたなるなる  
石よ相取のせきいづれ

左京大夫道雅

いまふとむけひ絶えんとける

人はさあそつうせりし

権中納言定頼

朝ほむ家より川務とく

あらたむるふせれり

相摸

いふらひをねゆつてあり

いふらひをねゆつてあり

大僧正行尊

りんとて家と山はら

花つらほつてさるるは

園防内侍

春の夜はさつとあり

かひもさるる人若くは

三条院は親

ふよとあらはせしあり

いふらひをねゆつてあり







藤原正後

藤原正後はもと藤原を命じて  
あつたはるむねいねり

法性寺入道前同皇政宣

つらふ厚薄出てみせり  
雲井一まきし

宗徳院古製

瀬を早んつとせり  
しほしとまきし



源い画目

洗名巻のしちるる  
く夜はふんね

左京大夫源頼朝

林やまきなひ  
りねむる日め

待賢門院堀河

あつねじつ  
らんされてけい

後徳大寺大信

時鳥をたふさふさあはじむ  
さうちうあまの月ころのたが

道因法師

なごももははたしむらあはあ  
うまうまうなみう成るち

皇太后宮寺僧

よのあはははははははははは  
あはははははははははははは

藤原清朝

ふんまはははははははははは  
しはははははははははははは

後徳法師

よはははははははははははは  
なももももももももももも

河内法師

まはははははははははははは  
かこららららららららららら



麻葉法師

しらるる乃ち海もまじりなまよ  
のなやぶる務くらのほふあま  
のゆよき

同前院の御

新はのぬりのわなむしよ  
り成はくしをこひわるるま

式子内親王

あまのをよこさるるなま  
らへしーのしるるのうらわ  
るすま

般富門院大僧

ふきもまよはあまのゆは  
わなもくぬき色かす

後京極攝政大臣

きんしよくお相成のしん  
なからよむしわのゆま

二條院讃岐

我うてき塩くらんわ件乃石  
れんうまねのしんま

鑑念大臣

古の申うねうねかゝるまゝに  
あまのを丹れ縁平の

子儀推定

みづの成るおとすに  
政帰るしやうらうら

前大納言田

おほきちりしきよの  
わさるるもたしな

入道前大臣

おほきちりしきよの  
るちやうめいしやうら

權中納言

おほきちりしきよの  
おほきちりしきよの

前大臣

おほきちりしきよの  
おほきちりしきよの





跡見学園女子大学短期大学部図書館

〒031-3943 1368



1001925633



